

地区協わかば

発行者: 若葉学校地区協議会
会長 清水 正孝
事務局: 調布市立若葉小学校内
連絡先: 調布市協働推進課
042(481)7036
地区協mail:
wakabatikukyo@gmail.com

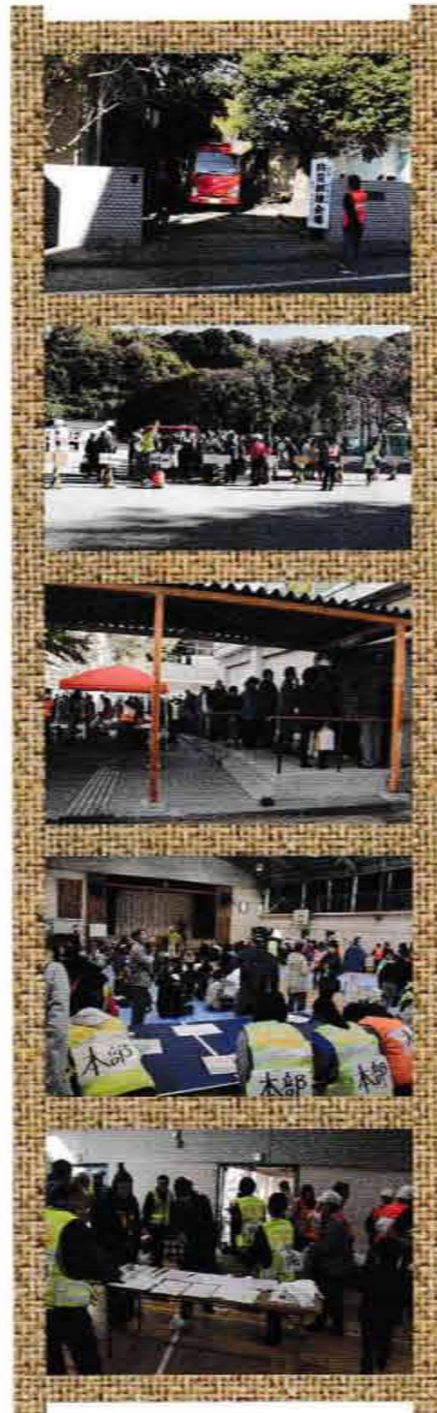
平成27年度 防災訓練 ～地区協主催の地域防災活動～

去る11月28日(土)地区協主催の防災訓練を行いました。

今回は地域住民が主体となって避難所開設訓練と災害時に最低必要な訓練を行いました。運営を行ったのは地区協、四つ葉防災のメンバーをはじめ、調布第四中学校の男女バレー部40数名、都立神代高等学校生徒会から10名でした。

運営スタッフは2週間前に集まり、各担当でそれぞれの仕事の確認をした後、訓練当日運営スタッフが地域の方々に指導するため、調布消防署つつじヶ丘出張所の消防士の方々に指導をお願いし、倒壊家屋からの救出訓練(救助資機材の使い方)、救出した人を運ぶ担架の正しい搬送のしかた、怪我をした人の三角巾を使った応急救護、初期火災や給水の為のスタンドパイプの使い方などを事前に習いました。担当になったスタッフはそれぞれの自治会や地域に戻り参加できなかった皆さんにしっかり教えることができます。

避難所開設訓練では、個人や家族で参加される方、また自治会では各自治会のマニュアルを試行し安否確認等しながら避難誘導して来たりと、300余名の方が集まりました。避難所となる体育館の安全を確認し、校庭では避難者達の受付を行いながら、体育館に誘導しました。体育館の受入班にはペットを連れてきた人や迷子、日本語が話せない外国人、けが人や亡くなった方の受入れなども予告なしに対応する訓練も行いました。訓練の最後は体育館でアルファ米と豚汁を食していただき、避難所生活も体験していただきました。



防犯関係のお知らせ

平成27年度活動

安全で清潔な街を目指しています。皆様の参加、ご協力が励みです。

地区協設立から満7年、地域の活動として防災と並ぶ防犯活動は月2回の定例の防犯パトロールを軸に止むことなく地道に、しかし着実に継続しています。1班或いは2班に分かれての児童公園等の巡回に加えて、同時にゴミ・空き缶を拾い、今も多いタバコのポイ捨てを嘆きながらこれを拾う。一方、違法なビラを撤去・回収します。ささやかでも街の美化に努め、安全で清潔な街を目指しています。

巡回中のたわいない世間話で、地域における情報交換の場となり、結果として顔の見える人々との関係が生まれています。新たに参加される方々との会話では、活動への参加を通して絆を求める思いが映る様で、互いに響き合うものを感じています。これは嬉しいことであり、(筆者には)励みとなる交流の場である様に思えます。新たな参加者・協力者を心から歓迎するゆえんです。

去年は巡回地域(若葉町、東つつじヶ丘、入間町)における空き巣の発生件数は3件、一昨年は0(ゼロ)件(調布署HP)でした。事件の件数は少ない方がいい。しかしこれで防犯パトロールの犯罪抑止効果を語るには控えめにしたい。地区協だからできる防犯活動のありかたを考えると、それは地域の大人たち、子供たちと挨拶を交わすことから始まる「顔の見える関係」づくりにその原点があると考えます。結果は中々表に出にくい息の長い活動ですが、「継続は力」をモットーに前進を続けてまいります。

皆さまのご参加・ご協力をお願い申し上げます。

なお、お問い合わせは誌名右横に記載の連絡先へご一報ください。

(防犯推進副委員長 山田 十三男)

振り込め詐欺は、親心につけ込め込む卑劣な「母さん助けて詐欺」です(調布署HP)。



防災関係のお知らせ

四つ葉学校防災協議会主催の夜間訓練

実施日 平成28年2月16日(火) 時間 18:00~19:10
場所 調布市立第四中学校
目的 夜間の災害時に備え避難所設置準備の訓練を行う
指導・協力 調布市総合防災安全課2名、
調布消防署つつじヶ丘出張所3名
参加者 調布市協働推進課1名、第四中学校教諭3名、若葉学校地区協議会委員、
四つ葉学校防災協議会委員20名 計29名

四つ葉学校防災協議会は、今回、上記の方々に参加していただき、夜間に災害が起きた場合の避難所開設の設置準備訓練をしました。18時に第四中学校の体育館前に集合した参加者を避難所設置コーディネーターが「点検班」、「運搬班」、「組立班」の3班に分け、グループリーダーを指名し、『防災マニュアル』に沿って各班の作業を指示し、参加者は各グループリーダーのもとで作業を行いました。「点検班」は避難所の設置にあたり、体育館の安全性を外部と内部から点検し報告します。「運搬班」は設置に必要な物品を防災倉庫からリヤカーなどで運びだします。「組立班」は運び出された資機材を組立て、設置していきますが、今回は設置までは行わないため、運び出した資機材を片付ける役目となりました。訓練では夜間で電気が消えている状況を想定しているため、明かりの確保が必要なことから、発電機の動かし方や、投光器やLED照明器具の扱い方などを総合防災安全課の指導の下、委員全員で勉強もしました。調布消防署と調布市総合安全課から訓練についてのコメントを頂いた後、委員の反省会では、もっと必要な物として、リヤカーや照明器具などがあげられました。また、倉庫内の物品をわかりやすく表示することやその他の課題を次回に生かすことを確認して、19時10分に解散となりました。

今回で夜間訓練は3回目となりますが、訓練を重ねるたびに課題が新たに出てくることは、今後の災害に対して大変重要なことと痛感した次第です。今後も夜間訓練だけでなく色々な想定の下、訓練を行っていきたいと思っていますので、皆様のご協力をお願いします。また、夜間寒いなか大勢の方の参加を頂きありがとうございました。有意義な訓練でした。

(副会長 防災担当 藤丸 卓男)



「若葉小学校学校支援地域本部」が「文部科学大臣表彰」を受賞

(調布市立若葉小学校長 星野 由美子)

「若葉小学校学校支援地域本部」は、子供たちに「より豊かな体験の機会を与える」ことを主なねらいとして設置され、今年度で4年目となります。コーディネーターの大嶋文子さんが、学校とボランティア、ボランティア間の連絡調整など、学校と外部をつなぐ役割を担っています。主な活動として、地域・保護者の皆さんを講師とした体験教室「サマーチャレンジわかば」や「若葉の杜にホテルを飛ばそう」などがあり、地域・保護者の皆さんのお力を借りて、これまでできなかったことが実現しています。このたび、地域・保護者の皆様から支援いただいた活動が優れているということで、『文部科学大臣表彰』をいただきました。これも地域・保護者の皆さんの温かいお力添えによるものと深く感謝申し上げます。



コーディネーターになって思うこと

(調布市立若葉小学校 学校支援地域本部 コーディネーター 大嶋 文子)

「学校支援地域本部」は主に、地域の学校が必要とする活動に対して、地域の方をボランティアとして派遣し支援する組織で、いわば学校の地域応援団です。文部科学省は平成20年度から事業をスタートし、調布市では22年の八中を皮切りに現在6校に設置されています。

若葉小学校には平成24年度より設置され(市内3校目)、私は当初よりコーディネーターを務めさせていただいております。学校からの要請を受け、学校や人、地域団体を「繋ぐ(つなぐ)」「紡ぐ(つむぐ)」といった取り組みを多岐にわたって行っており、それは「学習支援事業」、「安全安心の事業」、「環境整備、美化事業」、「四中連携事業」の4つに大きく分けられます。

ご紹介したい事業はたくさんありますが、その中でも特にたいへんで達成感があるのは、夏休みに行く「サマーチャレンジわかば」です。毎年地域、保護者、若葉小の先生方などによる、延べ約40講座にわたる体験学習を地域の子ども達に提供しています。参加多数で抽選になる講座も多く、申し訳なくも嬉しい忙しさを満喫しています。児童の「環境委員会活動」では子ども達に花や球根の植えつけを指導するボランティアを依頼したり、授業で行う畑や野川のウォッチングには地域の方から信頼できる人を紹介していただき、学校と連携したり...とコーディネートすることは様々です。

しかし、これはコーディネーターひとりではできないことではありません。地域に精通している方に相談し、ボランティアの方を紹介していただいたり、またボランティアの方には貴重な時間をさいて学校に支援をしていただいています。本当に感謝の思いでいっぱいです。きっとこの地域の土壌が優しさのかたまりなのでしょう。このような地域や学校の思いの中で健やかに逞しく、元気で優しい青年に育つことを願ってやみません。



調布市立第四中学校開校50周年記念式典

平成27年11月4日、第四中学校において開校50周年記念式典および祝賀会が行われました。

長友市長をはじめ来賓の方々より祝辞を賜り、教員・生徒・PTA有志による校歌、「わがまち調布」、「ふるさと」などの全員合唱で皆さまをもてなしました。

祝賀会のために地域の方々が竹製の酒杯をつくり、PTA委員が花壇の整備や当日の案内など多大なご協力をいただき、四中らしいあたたかい催しとなりました。

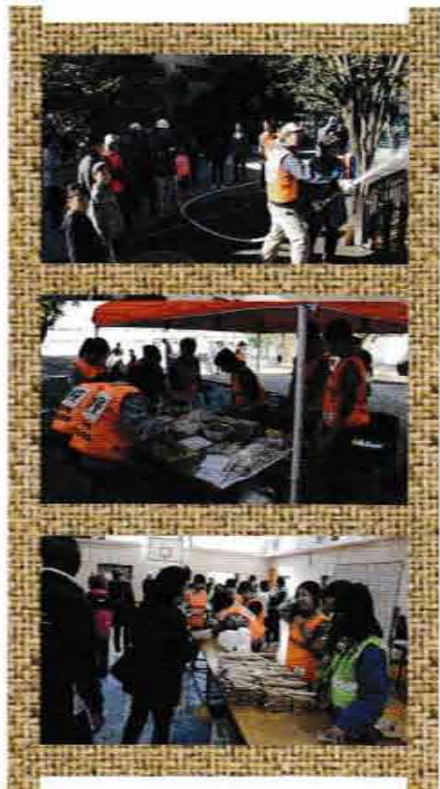


(広報委員 儘田 はるみ)

当地区にも「避難所開設マニュアル」はあります。今回こうした訓練を行うことでマニュアルがあつて良かったこと、またその通りにできなかったこと、やってみたら分かったことなどがたくさんありました。今後はこのデータを有意義に地域の防災訓練に役立てて行きたいと考えています。

お忙しい中参加して下さった地域の皆様ありがとうございました。また施設を貸して下さった若葉小、いつもお手伝い下さる四中の皆さん、神代高校の皆さん、そしてバックヤードで支えてくださった消防署の方々、調布警察の皆さん、市の総合防災安全課の皆さん、準備の段階から大変お世話になりました。今後ともよろしくお願ひいたします。

(防災推進委員長 大嶋 文子)



アンケートからの声(抜粋)

- この防災訓練を経て、防災への意識が高まった。それに地域の人との関わりができ、調布市民の一員として頑張れた気がする。“仕事”という重大な任務があつて忙しく、面白さや達成感が強くなった。
- 自分がAEDをやる時に恥ずかしがってしまったけど、実際は命を助けなきゃいけないから真面目にやろうと思いました。
- 知らない人ともいっぱい交流ができてよかった。

若葉学校地区協議会防災訓練について

(東京消防庁 調布消防署 つつじヶ丘出張所 消防司令補 瀧澤 昇)

昨年11月の若葉学校地区協議会防災訓練におきましては、地域の皆様が大量参加され大変有意義な訓練でありました。

訓練の大きな特徴は、消防職員が指導を行うスタイルではなく、住民自らが指導者となって行う住民主体の防災訓練であることです。指導者に指定された60名の住民の方々と調布市立第四中学校の生徒の皆さんは、事前に消防署で行った指導要領訓練に積極的に取り組み、各担当部門で熱心な訓練指導にあたりました。この訓練スタイルの大きなメリットは、日頃接する機会の多い近隣住民同士が工夫して訓練に取り組むことで、自助能力はもちろん、地域の連携体制が強化され共助の意識が高まる点であります。更に、中学生の皆さんや地域の若い方々が防災訓練に参加することで、将来の地域防災の担い手の育成につながります。

首都直下地震が懸念される現在、地域の防災行動力の向上が課題であり、消防署としましても引き続き皆様と連携を図り調布市の安全・安心に努めてまいります。

